

## 「マラウイ便り」 ～任地での住まいについて～

Vol. 1

青年海外協力隊 25 年度 1 次隊として、マラウイ国デッサ県に赴任している槻田英貴です。菅野隊員（22 年度 1 次隊）の後任としてデッサ県灌漑事務所に勤務しています。7 月にマラウイ国に到着し、首都リロングウェにて 1 か月の現地研修（現地事情・語学等）を終了後、8 月初旬にデッサへ赴任しました。徐々にではありますが、任地での暮らしに慣れてきましたので、今回は現地でのどのような生活を送っているのかをご紹介します。

現在の住まいは職場から徒歩 5 分の距離にある公務員住宅です。この家は代々協力隊員が借りていた家で、周りは日本人が住んでいることに対してあまり違和感が無いようです。ここでウオッチマン 2 人（昼夜各 1 人）、犬 2 匹（飼犬＋毎日どこからかやって来る犬）と新鮮な共同生活をしています。アリ・蜂・ヤモリ等のワイルドな侵入者との戦いは続きますが、水道と電気が比較的安定して使用できており、今までのところ不便を感じることも少なく恵まれた環境です。

日本での生活との差異を感じるのは洗濯とお風呂くらいです。洗濯は先輩隊員から引き継いだ用具一式（バケツ・洗濯板）を活用し、ゴシゴシ手洗いです。記念すべき一回目は力加減が分からず持参した下着が無残な姿になりましたが、最近はコツを掴みつつあります。家の近場には井戸ポンプがあり、よく子供達やご婦人方がそこを洗濯場として利用しています。もう少し手洗い上手になって井戸端メンバーに仲間入りすることが小さな目標です。

お風呂については、冬の現在よく冷えた水をそのまま使うのが辛いので、写真の water warmer と呼ばれる機械を使ってバケツにお湯を沸かしています。バケツに水を張り、この機械を浮かべれば 15 分程度でお湯になってくれます。バケツにノズルをつければシャワーにもなりますし、工夫次第で色々充実させることが出来そうです。慣れてしまえばバケツ入浴も快適に感じてくるのが、不思議なところですよ。

さて今後もマラウイについての情報をお伝えしていきたいと思っておりますので、お付き合いいただければ幸いです。それではまた次号でお会いしましょう。



住居の風景



洗濯用具一式



Water Warmer

---

明日使えるかもしれないチェワ語：Ndi thandizeni. (ディ タンデ イゼニ)「お願いがあるんだ。」